

平坦な植林地の戦い

第 35 回 北海道大学オリエンテーリング大会 2013 年 9 月 28-29 日

2013 年 9 月 28-29 日(日)
北海道大学オリエンテーリング大会

好天に恵まれた北の地

一時は廃部の危機にあった北大 OLC も部員数が 30 人程度まで回復し、北海道としては数年ぶりの公認 B 大会を開催するまでに至った。過去の運営経験・情報が無い中で、慣れない地図調査・地図作図等の大会準備は大変であったが、1 日目約 60 名 2 日目約 80 名の参加を集めることができた。第 34 回はクマの出没によって中止になってしまった中、今回は無事大きな事故もなく開催を終えられたことは嬉しいことである。

ある方向にだけ進行可能な林

今回のトレインは、山西麓の噴火堆積物が積もった平坦地が、トレインの北側を流れる千歳川と南側を流れるママチ川によって浸食された台地上にあたる。見通しの悪い林と、一定方向に対して走りやすい新しい植林地が平坦な台地上に混在している。旧地図では 1999 年に作成された「緑笏の森」を、GPS を導入するだけでなく、最近主流となってきた航空レーザ測量データを用いてリメイクを行った。

他のトレインでは殆ど見られない JSOM411「ある方向にだけ進行可能な林」が植林地として分布しているのが大きな特徴で、その方向を上手く利用して高速ナビゲーションするのが鍵となった。大会ホームページ (<http://www.o-hokkaido.com/huolc/>) や会場でも告知されていたが、地図上での白抜き直線箇所≠走行可能植林筋となるため注意が必要であった。



次ページの地図 19 番ポストから 200m 程度東の地点。

1 日目ミドル

1 日目のミドルは 2 日目トレインの東側に隣接するエリアで行われた。見通しの悪い斜面上での微地形エリアの処理が求められるレースであった。M21A は青葉会八神遥介選手が東大 OLC 深田恒選手に 1 秒の差をつけて優勝する激戦りであった。W21A は北大 0B でスキー 0 で活躍している酒井佳子選手が後続に 2 分以上の差をつけ力を見せつけた。



2 日目ロング公認 B

2 日目のロングは本州ではまず見ることのできない真っ平らな台地上で行われた。トレイン内を走る林道と、方向性のある植林地を活用して素早いナビゲーションをすることが求められた。トレインの性質こそ違おうが、距離に対する等距離の割合は 2 週間後に行われる奇跡でのインカレロングに近いため、良い準備レースとなった可能性もある。

M21E は京葉 OL クラブ、櫻本信一郎選

手が後続に 2 分半の差を付け 1:35:32 で優勝。W21E はチーム白樺、斎藤早生選手が 1:29:47 で優勝した。



選手が出走し、人がまばらになった会場



初めての運営を行う 1 年生たち



北大運営者が来ていた T シャツには今年度誕生した北大 OLC 公認マスコットキャラクターオリックマが描かれていた

ポンマテカチ

泉沢～平らの美学～



白い恋人争奪戦

2日目ロングの終了後は表彰式が行われた。各クラスの上位を表彰するだけではなく、ラスポゴール賞。エレガントパンチ賞・給水賞など変わった賞もあった。表彰式後は、札幌 OLC から頂いた大量の白い恋人(運営者が一部こっそり盗んだ後)をかけてジャンケン大会となった。



夜はやっぱりすすきの?

大会後には欠かせない飲み会である。かつては偉大なOBの下で行われたという100人コンパ?であるが、100人は流石に厳しいとしても40名弱の参加者を集めることができた。一時は廃部寸前だった北大 OLC がこうして、他の参加者を受け入れて飲み会を開けるまでの

勢いを取り戻せたことは非常に嬉しいことである。



今後へ

運営上ではいくつか問題点が見受けられた。誘導テープが白のためわかりづらい。計算センターのトラブル。地図販売での対応時間。他にもいくつかあったが、今後の改善点としていきたい。来年度の北大大会の詳細はまだ未定であるが、後輩たちの活躍に期待している。

最後に

株式会社伊藤組様は大会エリアの山林所有者として土地を貸してくださいました。山田健一氏はコントローラー

として、運営上での問題点を多数指摘して頂きました。また、山田氏にアドバイスをしてくださった方も多数いると聞いています。遠い中わざわざお越しいただいた多くの参加者も勿論、多くの人にお世話になって無事大会が開催できました。大変ありがとうございました。



(松本佳也)